

モニタリング結果報告書（平成24年度下半期）

施設	津久井やまゆり園
指定管理者	社会福祉法人かながわ共同会
指定期間	H17.4.1 ~ H27.3.31
施設所管課	障害サービス課 ()

1 今期の指定管理者の管理運営状況（2～10の結果を踏まえた判定）

B

<判定理由>

地域との関わりを重視し、地域福祉の推進に努め、県の求める拠点施設としての機能を維持向上している。
 提案の実施状況については、地域との交流事業や在宅障害者への支援等、着実に実施している。
 利用者数についても、前年度実績を上回る高い利用率を確保しており、良好な管理運営が行われている。

- ：提案を上回る取組みを実施し、極めて良好な管理運営状況である。
- B：提案どおりに取組みを実施し、良好な管理運営状況である。
- C：提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、一部工夫が必要な面がある。
- D：提案どおりに取組みを実施していない。また、提案どおりに取組みを実施したが、管理運営状況については、抜本的な改善が必要である。

2 月例報告書によるモニタリングの概況

報告月	受理日	確認通知日	確認方法			指導等の有無	備考（指導事項等）
			月報確認	現場確認	電話確認		
10月	11月5日	11月5日	○	—	—	無	
11月	12月5日	12月5日	○	—	—	無	
12月	1月4日	1月4日	○	—	—	無	
1月	2月6日	2月6日	○	—	—	無	
2月	3月5日	3月5日	○	—	—	無	
3月	4月5日	4月5日	○	—	—	無	

3 指定管理者が提案した取組み等の実施状況

	提案内容	実施状況
1	強度行動障害対策生活支援事業の実施 施設入所機能を生かして、在宅や民間の事業所で支援困難ケースを積極的に受け入れ、指定管理者の役割を果たしていく。	本事業を実施している県立施設との定例の会議に出席し、対象利用者の支援についての情報交換等を行う。また、園内にもフィードバックしている。ケースワーカーと事業担当職員が津久井養護学校や近隣の特別支援級を訪問し、上半期に6名の新規入所者のうち、1名を本事業の対象者として取り組んだ。定期的なカンファレンスを開催し支援内容の充実を図った。来年度に向けてさらに1名を受け入れる予定である。一方、利用者の安全確保における行動制限（身体拘束）についてのガイドラインを事業担当職員を中心に作成した。

	提案内容	実施状況
2	<p>人権擁護の理解促進を図るため職員としての資質の向上を目指す。</p> <p>障害者の人権擁護を基本的な理念として質の高い職員集団を目指し、研修体制の強化充実を図る。</p>	<p>法人の階層別研修のテーマを「虐待防止法施行に向けた取り組み」とし、各階層で、半日を外部講師等による虐待防止法についての講義とし、半日はグループワークの中で、日頃の支援についての振り返りを行った。</p> <p>当園においては、セラピューティックホールド研修を開催し、利用者のパニック時に職員が安全に介入する技術を学んだ。また、非常勤職員を対象とした人権研修を開催し、当園で作成した支援指針パンフレットを用いて、人権についての理解を深めた。</p> <p>支援の参考にするため職員向け・ご家族向け・実習生向けの人権アンケートを実施し、アンケート結果を踏まえ、課題整理を行った。</p>
3	<p>グループホーム等地域生活移行推進事業</p> <p>ケアホーム入居予定者に対して、ケアホームを利用した生活体験を行う。</p> <p>放課後等デイサービス事業</p> <p>在宅障害児者支援のために新規に事業を開始する。</p>	<p>11名（実数）に対して、延べ22日間実施。平成24年10月に開設したケアホームには、上半期に体験利用した方のうち3名が入居した。</p> <p>平成24年4月1日に根小屋地区日中活動支援センター（生活介護事業所＋放課後等デイサービス事業の多機能型事業所）「そよかぜ」を開所。児童・生徒の受け入れを開始した。また、若柳地区放課後等デイサービス事業の開設準備に取り組んだ。</p>
4	<p>すこやかサービス事業</p> <p>福祉関係職員・地域住民・家族等を対象に、一次救急救命処置研修を実施する。</p>	<p>応急手当普及員の有資格者が16名おり、同事業を21回実施して延べ70名の講師を派遣し、延べ407名の参加があった。実践的な内容であり、参加者からの質問も多く熱心に参加してもらった。</p>
5	<p>障害者地域余暇活動支援事業</p> <p>在宅障害者への余暇活動（ワクワクサークル）</p> <p>近隣作業所・学校との創作活動（わいわい創作活動）を実施する。</p>	<p>イチゴ狩り、ボーリング、バーベキュー、ぶどう狩り、動物園、いもほり、クリスマスパーティ、クッキング懇談会、イルミネーション見学の「ワクワクサークル」を9回実施し、延べ108名の利用者及び33名のご家族が参加した。</p> <p>陶芸、ステンシル、リースのうちからひとつを選んで取り組んでいただく「わいわい創作活動」を1回実施し、外来者82名、園利用者62名、講師3名、ボランティア9名が参加した。また、体育館ステージ横の放送室を利用して利用者が歌った歌を参加した利用者にプレゼントした。</p>

	提案内容	実施状況
6	<p>地域交流等支援事業 地域住民、福祉職員等に障害者への理解が深まるような交流会（地域コンサート・ファンファンワークショップ）を実施する。</p> <p>地元小学校との合同地域清掃活動 施設等を会場とした親子・職員による参加型のワークキャンプを実施する</p>	<p>童謡やリズムカルな音楽を楽しむ「地域コンサート」を5回実施し、外部の方が延べ261名、当園利用者が延べ562名が鑑賞することができた。</p> <p>草木染のTシャツづくり・万華鏡作り・押し花を作製する「ファンファンワークショップ」を3回実施し、延べ一般68名、利用者12名が参加した。</p> <p>竹筒炊飯でのカレーを作り、すいか割り、バームクーヘン作りなどの活動を行う「そよかぜワークキャンプ」を3回実施し、延べ46名の利用者が参加した。</p>
7	<p>地域生活支援関係者研修事業 地域生活支援にかかわる人材育成及び福祉関係職員のスキルアップを目的とした研修会を実施する。（寺子屋シリーズ、オープンセミナー、津久井フォーラム）</p>	<p>虐待防止法、高次脳機能障害、与薬の基本、二次障害の基本について学ぶ「寺子屋シリーズ」を4回実施し、外部の方が延べ96名。当園職員が延べ95名参加した。</p> <p>12月11日（火）オープンセミナー「知的障害者の脳卒中と摂食・嚥下障害」を津久井やまゆり園会議室で開催した。 日本大学歯学部教授 植田耕一郎先生 参加者 延べ47名</p> <p>3月23日（土）津久井フォーラム「想いをうけとめる、つなげる、相談支援」を津久井やまゆり園会議室で開催した。 参加者 延べ55名</p>

4 収支状況

(単位：千円)

		収入額				支出額	収支差額
		指定管理料	利用料金	その他収入	収入合計		
募集時の積算額 (参考)					0		0
予算額	前年度	602,867	729,600	59,201	1,391,668	1,355,987	35,681
	上半期	298,843	364,800	29,600	693,243	677,993	15,250
	下半期	304,024	364,800	29,601	698,425	677,994	20,431
	今年度	461,351	754,015	16,718	1,232,084	1,131,150	100,934
	上半期	298,501	377,007	8,359	683,867	565,575	118,292
	下半期	162,850	377,008	8,359	548,217	565,575	▲ 17,358
下半期実績額	10月	40,552	67,677	1,778	110,007	75,690	34,317
	11月	40,552	63,965	758	105,275	70,350	34,925
	12月	100,935	61,757	1,124	163,816	157,680	6,136
	1月	40,552	60,257	1,272	102,081	91,426	10,655
	2月	40,552	58,388	1,038	99,978	82,338	17,640
	3月	▲ 100,293	62,474	1	▲ 37,818	106,877	▲ 144,695
	今年度 下半期合計	162,850	374,518	5,971	543,339	584,361	▲ 41,022
	前年度 下半期合計	304,024	372,405	50,525	726,954	758,235	▲ 31,281
	対前年度下半期比			③	-25.3%	-22.9%	
参考	今年度 上半期合計	298,501	380,053	10,877	689,431	538,914	150,517
	今年度 合計	461,351	754,571	16,848	1,232,770	1,123,275	109,495

注：千円未満を切捨てているため、合計は一致しない。

収支状況に関する確認等

確認項目	該当	理由等
① 年間予算額における収支差額が0でない	○	収支差額については、突発的な修繕等に対応するため予備費扱いとしている。また、自立支援費収入が2ヶ月遅れで入金されることから、次年度当初の運転資金として活用する。
② 今年度下半期合計欄の収支差額が、収入合計又は支出額のうち低い方の額の1割以上増減がある	×	該当なし
③ 収入額又は支出額が前年度下半期比で3割以上増減がある	×	該当なし
④ その他特記事項		

<参考>

本施設について県が支出した（する）計画修繕工事・各所営繕工事等に係る修繕費等
 基本協定において、県が負担することとしている修繕費等：大規模修繕：指定管理者と協議、各所営繕
 工事・計画修繕工事：県、これ以外：指定管理者

	金額（千円）	工事箇所・内容（金額）
上半期	0	
下半期	0	
合計	0	

今期に行った資本的な収入及び支出等の状況

	金額（千円）	内容
収入	0	
	0	
	0	
	0	
支出	5,450	全自動洗濯脱水機（2台）経年劣化のため入替
	3,198	食器洗浄器（1台）経年劣化のため入替
	555	利用者の障害特性に合わせた居室改修工事
	261	利用者の障害特性に合わせた居室改修工事
積立等	0（期首）	
	0（期末）	

- 1 収入：定期預金の取り崩し、借入れによる収入等
- 2 支出：車両の購入、施設の増改築、定期預金の積立等
- 3 積立等：施設の増改築のための積立・借入れ、定期預金等

5 利用状況

	利用者数	前年同期利用者数	前年同期対比増減率
10月	147 人	142 人	3.5 %
11月	147 人	141 人	4.3 %
12月	146 人	141 人	3.5 %
1月	146 人	141 人	3.5 %
2月	146 人	142 人	2.8 %
3月	148 人	143 人	3.5 %

	目標利用者数	利用者数	前年同期利用者数	目標対比増減率	前年同期対比増減率
今年度上半期計	900 人	870 人	853 人	▲ 3.4 %	2.0 %
今年度下半期計	900 人	880 人	850 人	▲ 2.3 %	3.6 %
今年度合計	1,800 人	1,750 人	1,703 人	▲ 2.8 %	0.0 %

利用状況に関する確認等

確認項目	該当	理由及び対応策
① 今年度下半期の利用者数が前年同期比で1割以上増減	×	該当なし
② 今年度下半期の利用者数が目標利用者数を下回った	○	神奈川県障害福祉計画に「福祉施設の入所者の地域生活への移行」が数値目標として定められていることから、当園においても、自立生活可能な障害者が在宅やグループホーム、ケアホームといった地域生活移行に向けた取組を進めた結果、目標利用者数（定員150人）を割っている状況にある。定員割れについては、短期入所の受入枠を広げ、在宅支援に努めた。
③ その他特記事項		

6 苦情・要望等の状況

受付件数

下半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	アンケート	
上段：報告件数 下段：報告件数のうち所管課受付分	1 (0)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)

(参考)

上半期報告件数	口頭		文書			合計
	対面	電話	手紙	電子メール	アンケート	
上段：報告件数 下段：報告件数のうち所管課受付分	12 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (0)

7 特筆すべき苦情・要望等及び対応状況

分野	概要	対応状況
施設・設備		
職員対応	地域サービス事業の外出サービス途中に、母子で参加していた方のお子さんに、引率職員が車道を横断する際に、手を引いたことに対して、後日母親から、障害特性を理解していないという訴えがあった。	電話で謝罪した後、後日、時間をとり改めて説明と謝罪を繰り返し行うが、ご理解いただけなかった。当該苦情のほかに、当該利用者が過去に園内のガラスを割ったときの対応、通所利用の際、送迎時に本人が自傷されたときの対応等についても、苦情を言われる。改めて母に対し説明をするが、ご理解いただけず、当該利用者が卒業した養護学校に連絡され、三者で話し合いを持った。その後、母が相模原市の障害者虐待通報窓口で連絡をされ、当園は相模原市の立ち入り調査を受けた（調査後、市からの連絡を待っている状況）。
事業内容	津久井やまゆり園近隣の住民の方から明け方5時過ぎに「建物から窓をたたく音がうるさい」と電話あり。当該ホームの利用者が不調であり、蛍光灯を割ってしまったり興奮状態であり、職員がクールダウンの対応をとっていた。その際の音と考えられる。 匿名の電話で、「車で5分ほど離れたスーパーの近くの信号で、障害者と思われる方が、3名程度で職員の付き添いなしに横断していて危険である。津久井やまゆり園の方でなければ申し訳ないが気になったので連絡した。」とのこと。	お電話を下された方に、当日の様子を説明し謝罪を行う。 電話の際に、事実を確認するとともに、謝罪とお礼の気持ちをお伝えする。当該時刻に、津久井やまゆり園、ケアホームともに、本件に該当ないことが確認されたが、会議等で顛末を職員に周知した。
その他		

8 事故や不祥事等の発生状況

発生日	事故等の概要	指定管理者の対応状況	原因・問題点 (指定管理者の課題を含む)
11月12日	10/18に当該利用者の左腕の痛み腫れあり、通院するがレントゲンの結果骨折はなく打撲の診断。痛み腫れ引かないため改めて11月12日に通院し、レントゲンとCTを撮ったところ剥離骨折していた。	骨折診断後、ギブス着用にて介助方法に留意した。転倒等の直接的な原因がわかっていない。今後の支援方法について理学療法士等に相談をしていく。	転倒等の直接的な原因がわからないこともあり、日ごろの観察に、今以上留意する必要あり。また、骨折しやすいとの医師からの指摘もあり、支援方法に留意していく。
2月10日	本年1月に初めて短期利用された方で、今回は2回目だった。2/10に本人から乾電池を飲んだと訴えある。すぐに救急搬送し、救命救急センターで処置するが取り出すことができなかった。2/12にヘアピンを飲んだと訴えあり。直ちに通院するが、内視鏡で電池は取れたがヘアピンは取れなかった。2/14に開腹手術をし、ヘアピンも取り除くことができた。	通院等は随時対応した。居室やホーム内、持ち物等の環境整備、管理に直ちに取り組んだ。精神病院入院が長かった方で、退院へ向けた取り組みの一環として実施した短期利用であった。 改めて関係機関を交えてのケースカンファレンスに参加し、情報交換を行い、連携して支援していくことを確認した。	事前に、異食があるとの情報を得て、環境整備に努めていたが、1回目の利用時に落ちていて過ごすことができていたため、今回2回目の利用の際に、職員意識が薄れていたとも感じる。環境整備、職員への情報の徹底、本人が落ちていて過ごせるように傾聴に努めていく。また、関係機関とも連携して支援することも必要なケースである。
2月12日	2/10に他の利用者に押され転倒する。痛がっていたが、手も動き、日常生活も変わった様子なかったため、様子観察していたが、2/12にも痛がっていたため通院したところ、右鎖骨を骨折していた。	12日に通院した結果、骨折が判明した。怪我をされた方は高齢でもるため、介護度が、園内で比較的高いホームに変更して頂いた。	押してしまった利用者は入所3ヶ月であったが、突然の動きに職員が対応できなかった。本人を見守りながら、本人にあった支援を進めていくこととする。

9 随時モニタリングの実施状況

該当なし

実施日 (事故発生日)	経緯・調査内容	調査結果 (指定管理者の課題の有無等を含む)
()		
()		
()		

10 今期の実績を踏まえた評価、改善策等

<p>今期は、入所利用者が増加し入所定数に近づいた反面、短期利用の枠は減ってしまうことになった。在宅障害者のニーズに答えるためにも短期利用の枠を有効利用できるようにきめ細かな調整を行う必要があると考える。</p> <p>骨折等の怪我、事故が引き続き発生している。発生後の対応については、適切に行われているが、ひやりはっと・事故報告を分析し、再発防止策を徹底していく必要がある。</p> <p>一次救急救命処置研修である「すこやかサービス」、また、地域交流事業である「地域コンサート」「ワークショップ」等、地域向けの地域サービス事業を積極的に取り組むことができた。引き続き地域サービス事業の各事業を積極的に取り組みながら、地域の社会資源として地域福祉の貢献に努めていく。</p> <p>併せて、ケアホーム、生活介護事業所、放課後等デイサービス事業所等、本体施設と連携して自主事業をすすめていくことで、地域のニーズに応える取組みを進める。</p>
